

授 業 科 目 名	国語科教育法Ⅱ	教 員 名	菅 邦男	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択必修
					幼稚園教諭	
					保育士	
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		こども音楽療育士	
科 目 番 号	SID302	配当年次	3年後期	卒 業 要 件	小幼コース	選択必修
単 位 数	2単位				幼保コース	選択
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	<p>教材研究能力を培う。主として教科書の文学的文章教材・説明的文章教材を対象とし、読み取るための基本的な読解技術を学ぶ。その技術を応用し、個人及びグループで教材を分析検討する。また授業実践記録を参考に、指導案の書き方を学ぶ。</p> <p>(1) 国語科の目標及び内容 学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 国語科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 国語科の目標及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 国語科の学習評価の考え方を理解している。 4) 国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 <p>(2) 国語科の指導方法と授業設計</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 国語科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 					
授 業 の 概 要	<p>国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>各学年の文学的文章教材・説明的文章教材の中から幾つかを対象として取り上げ、具体的に分析を行うことで教材研究能力を培う。また教材開発、授業設計、模擬授業により授業実践能力を培う。まず、各教材が該当学年また6年間のなかでどのような系統のもとに位置づけられているかを確認し、教材が単独に設定されているわけではないことを理解する。対比構造など「読み取るための基本的な読解技術」を学び、その技術を応用して教材分析を行う。視点論についても学習し、その観点から教材を分析検討する。教材開発は個人及びグループ研究とし、授業設計、指導案の作成、模擬授業を行う。アクティブラーニングとして個別の質疑応答、対話型講義、グループでの討議・発表等を取入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：授業は十分な教材研究の上に成り立つものであることを理解する。</p> <p>教材「ごんぎつね」の構造を分析し、登場人物の心情・行動をこの構造に沿って把握し、悲劇に至る経緯をとらえる。その過程が「ごんぎつね」の授業展開につながることを理解する。（目標(1)-</p>					

	<p>2), (2)-1), 2))</p> <p>第2回：文学作品の読み 文学作品の読みは、必ずしも一つの読み・解釈に収束するものではないことを「ごんぎつね」の読みを通して学ぶ。また、それが「思考力・判断力・表現力等」の形成へと繋がることを理解する。(目標(1)-1), (2)-1))</p> <p>第3回：文学作品のレトリック 文学作品には様々なレトリックが用いられていることを知る。特に「対比」はほとんどの作品において用いられている。「ごんぎつね」、短歌、俳句を例に「対比」とその効果について理解する。(目標(1)-4), (2)-1), 2))</p> <p>第4回：視点論とは何か 基本的な視点論について、絵本「ロージーのおさんぼ」(3人称視点)等を用いて具体的に学習する。(目標(1)-4), (2)-1), 2))</p> <p>第5回：1人称視点 1人称視点について「吾輩は猫である」等を例に理解する。また絵本「ロージーのおさんぼ」(3人称視点)を1人称視点に書き直し、その違いと視点の必然性を実感する。(目標(1)-4), (2)-1), 2))</p> <p>第6回：物語教材の視点論的分析 国語教材「ごんぎつね」をグループで視点論的に分析し、発表する。(目標(1)-4), (2)-1))</p> <p>第7回：視点論から見た絵本化の問題 絵本「ごんぎつね」を視点論的に見ていき、その問題点を把握する。(目標(1)-4), (2)-1))</p> <p>第8回：説明文的文章教材における「対比」 説明文的文章教材「どうぶつのおちゃん」の構成を分析し、非文学的文章においても「対比・類比」が効果的に使われていることを理解する。(目標(1)-4), (2)-1), 2))</p> <p>第9回：演習 説明文的文章教材を分析し、その構成をとらえる。(目標(1)-4), (2)-2), 3))</p> <p>第10回：文学作品の構成 教科書教材「世界でいちばんやかましい音」を分析し、教科書の「設定、展開、山場、結末」という構成のとらえ方を理解する。(目標(1)-4), (2)-2), 3))</p> <p>第11回：演習「文学作品の構成をとらえる」 教科書教材「ちいちゃんのかげおくり」の構成・対比をとらえる。(目標(1)-4), (2)-2), 3))</p> <p>第12回：教材開発と模擬授業(A・B・Cグループ) 各グループで目標を設定し新たな教材を開発する。共同研究により教材分析を行い、指導案を作成する。時間の関係で教材は「詩」とする。(目標(1)-3), (2)-2), 3))</p> <p>第13回：教材開発と模擬授業(Aグループ) Aグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。指導案の検討。(目標(1)-3), (2)-2), 4))</p> <p>第14回：教材開発と模擬授業(Bグループ) Bグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。指導案の検討。(目標(1)-3), (2)-2), 4))</p> <p>第15回：教材開発と模擬授業(Cグループ) Cグループの模擬授業を行う。授業後、質疑応答。指導案の検討。(目標(1)-3), (2)-2), 4))</p> <p>期末試験</p>
<p>学生に対する 評 価</p>	<p>授業中の発表50%、期末試験50%で評価を行う。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに完全に理解しておくこと。</p>

テキスト	プリントを配布する
参考書・ 参考資料等	『小学校学習指導要領（最新版）』、『小学校学習指導要領（最新版）解説 国語編』
担当者からの メッセージ	特になし
オフィスアワー	毎週木曜日 15:00～17:00 その他の日時は、メール等でアポイントを取って来室すること。